

# リサイクル計画書 (概略設計・予備設計)

1. 業務概要

発注事務所名	
業務名	
業務概要	
工事施工予定場所	
工事着手予定時期	

2. 建設資材利用計画

建設資材	① 利用量	② 現場内利用可能量	③ 再生材利用可能量	④ 新材利用可能量	⑤ 再生資源利用率 (②+③)/①×100	備 考
土 砂	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	%	
砕 石	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト混合物	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	⑥ 発生量	⑦ 現場内利用可能量	⑧ 他工事への 搬出可能量	⑨ 再資源化施設 への搬出可能量	⑩ 最終処分量	⑪ 現場内利用率 ⑦/⑥×100	備 考
建設発生土	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	地山 m <sup>3</sup>	%	
コンクリート塊	トン	トン	トン	トン	トン	%	
アスファルト・コンクリート塊	トン	トン	トン	トン	トン	%	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン	トン	%	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン	トン	%	
取りこわし建物	件						

利用可能量等は、現時点で算出可能なものとする。  
建設副産物の搬出計画について、基本的には全量を再利用することを原則として計画する。

#### 4. 建設副産物対策に関する基礎データ

##### (1)再資源化施設の稼働状況等

再資源化施設	施設名	運搬距離	運搬時間	資材単価	副産物受入条件	備考
A		km	分	円/m <sup>3</sup>		
B		km	分	円/m <sup>3</sup>		
C		km	分	円/m <sup>3</sup>		
D		km	分	円/m <sup>3</sup>		

##### (2)建設副産物の発生抑制・減量化・再利用計画

--